

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	30	学校名	海津明誠高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	生徒一人一人を大切にして、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。 (1) 自らの目標を達成するための確かな学力の定着と主体的な学習態度の育成 (2) 基本的な生活習慣を培い、礼儀や規律を重視した指導の徹底 (3) 「開かれた学校づくり」を推進し、家庭や地域社会から信頼され支持される学校づくり	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の3つの学科がある学校の特色を生かし、地域との連携を深め、地域課題を発見・解決するふるさと教育の推進 探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実し、協働的な学びを通じた、個々の「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」の育成 ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、進路希望と特性に応じたコース選択によった、大学進学に対応できる学力の向上ならびに、地元企業等で即戦力となる人材の育成 商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、知識基盤やグローバル化といった多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通じた、生活における様々な課題を自ら解決できる力と職業
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 人とのつながりの中で、感謝の気持ちを忘れずに、規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志をもった生徒 学習や学校内外の諸活動（HR活動・生徒会活動・部活動・学校行事・ボランティア活動等）において、自分の可能性を信じて実践を発展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 人の意見に耳を傾ける姿勢・自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 高校生活を送る海津市を始めとする自分が育ったそれぞれの地域とのつながりを大切にし、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いを持った生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 海津市唯一の高等学校として、地域とのつながりが深く地域からの期待も大きいが、少子化や高校選択の多様化の中で慢性的な定員割れを起こしている。 学力差が大きく、義務教育分野の学習でつまずきを感じている生徒もおり、丁寧な支援が必要である。 友人間の小さなトラブルに適切に対応する力が乏しく、人間関係を築くことに苦手意識をもっている生徒も少なからずおり、生活面でも丁寧な見守りが必要である。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	生徒の興味関心や進路等に応じた具体的な目標を定めさせ、「自ら学び自ら考える」態度を育成する。 正解が一つではない問に対し、納得解を得られるような探究型学力を育成する。
	進路指導	進路サポーター制度を活用して、生徒一人一人の適性を大切にし、生徒が自らの進路を自らの手で実現できるようにキャリア発達を支援する。 キャリア教育の全体計画に基づき「進路意識・学力・進路実現性」を高める事業を全校体制で計画的・継続的に実施する。
	生徒指導	生徒が自他の生命の安全と人格を尊重できるような支援や指導を実施する。 正しい制服着用の指導や遅刻防止指導等を通して、規範意識を醸成する。
	特別活動	生徒の自己肯定感を育み、自己実現を図るための場として、部活動の充実を図る。 活力ある高校づくりを目指し、地域のイベントやボランティア活動等への参加を通して地域貢献活動に取り組む。

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	地域を知る学習、地元企業や地域の方々との共同学習を進め、ふるさとに貢献できる人材を育成する。	4	施策Ⅰ-4	生徒による授業評価・分析 保護者アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器活用が進んだが、さらなるスキルアップを目指す。 生徒の学力の伸長を把握できた。より上の段階へのアプローチ方法を今後も検討していく必要がある。 進学に活かせるレベルまで、探究学習をさらに深めていく必要がある。 家庭学習を習慣化する手立てを今後も引き続き検討していく。 	
	未来を担う生徒に必要な学力を付けるための授業研究や、授業形態の工夫等授業改善を図る。	8	施策Ⅱ-8	公開授業週間の教員交流 校内研修			
	ICT機器を活用した授業実践、授業研究を通して、生徒自身のICT活用能力を高める。	9	施策Ⅱ-9	生徒によるICTを活用した発表 教員によるICT活用の実践交流 基礎学力テスト結果分析			
	学び直し学習、個別対応により基礎学力定着を図る。	23	施策Ⅳ-23				
進路指導	生徒一人一人が描く未来像や各々の学力に適した補習や試験を実施することにより学力の向上を図る。	8	施策Ⅱ-8	補習授業の充実と、各種試験結果の分析	B	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験の結果を分析し、発展的な内容の補習授業や、学び直しを図る補充授業などを実施していきたい。 生徒の活動の様子を知らせる「進路だより」や「羅針盤」を発行し、さらなる情報発信を図る。 求人票ソフト～Handy進路指導室～を導入したことにより、生徒や保護者への求人票提供及び進路支援部の作業がより円滑に進んだ。 	B
	地元産業・企業及び認定こども園等と連携し、商品開発や研修を通しキャリア発達を図る。	13	施策Ⅱ-13	学習成果発表会の開催と成果や検定試験結果			
	学年会等と連携し進路サポーター制度を円滑に運用すると共に、ガイダンス等を効果的に機能させる。	14	施策Ⅱ-14	進路目標の明確化とその達成度の把握			
	「進路だより」「羅針盤」及びHP等を活用して、職員・生徒・保護者に情報を発信する。	26	施策Ⅳ-26	「進路の手引き」ワークシートの確認			
生徒指導	生命の尊重の呼びかけや不審者被害防止指導を実施する。	1	施策Ⅰ-1	集会・LHR等での指導や呼びかけの実施	B	<ul style="list-style-type: none"> 生命にかかわる事案や、不審者被害は無く、命を大切にしている行動がとれている。 一部身だしなみが乱れている生徒がいるが、ほとんどの生徒が正しく制服を着用し、端正な身だしなみが保っている。 遅刻者数がのべ500人を超えた。 いじめの早期発見・早期対応ができています。 	
	身だしなみ指導および身だしなみ指導カードを利用した再指導を徹底する。	1	施策Ⅰ-1	身だしなみ指導カードの振り返り			
	遅刻防止指導マニュアルの作成および全教員による遅刻防止指導を徹底する。	1	施策Ⅰ-1	年間遅刻回数へのべ500回以下			
	教育相談活動やいじめ・不登校を早期発見するための活動を実施する。	3	施策Ⅰ-3	日常的な情報共有の実施 会議や調査の実施			
特別活動	生徒一人一人が主役となって活躍できる生徒会活動を実施する。	1	施策Ⅰ-1	生徒が運営する行事の割合	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となって活動できるようになった。そのスタイルが定着してきて生徒の意識も変化し、自分達の仕事として取り組めるようになった。 それぞれの科で地域との連携先を持っている。今後も関りを密にしていきたい。 県大会を突破し、東海大会以上に出場できるようになった。また、地区大会を突破し県大会に出場できるようになった。 	
	地域行事への協力やボランティア活動の推進等、地域との連携を強くする。	4	施策Ⅰ-4	各行事やイベントへの参加実績			
	部活動を活性化し、全国大会・東海大会への出場・県大会上位入賞を目指して活動する。	16	施策Ⅲ-16	各大会への出場実績・成績			

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月24日

学習指導に関して
 ①家庭学習の定着に向けて、実態を把握し、特定の教科に偏ることなく適切な課題を全ての教科が継続的に出す。
 ②低学年から、具体的な進路目標を定めさせ、個に応じた適切な学習指導を行う。そのために放課後等を利用した個別指導を引き続き行っていく。
 進路指導に関して
 ①応用学力を高める事業として、補習・模擬試験・小論文対策等のさらなる充実を図る。
 ②進路意識を高める事業として、大垣商工会議所と連携し大垣地域・海津市地域合同企業展を今後検討する。
 生徒指導に関して
 ①いじめ早期発見を徹底するために、3日間連続して欠席をした生徒について、原則として家庭訪問を実施する。
 ②連絡なしの遅刻が多い生徒だけでなく、連絡ありの遅刻が多い生徒に対しての面談も実施する。
 特別活動に関して
 ①生徒主体の活動や行事を今後も増やしていく。また、与えられた役割や仕事に対する意識の向上を目指す。
 ②部活動について、全員加入を目指し、活躍できる生徒の発掘や活性化をすすめる。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月24日

学習指導に関して
 ・個に応じた手厚い少人数での授業が、よい環境の中でなされていて評価できる。
 ・授業時のICT機器活用がより進むように、更なるスキルアップを目指してほしい。
 進路指導に関して
 ・低学年から具体的な進路目標を定め、進路サポーター制度等を活用した個別指導がなされていてよい。
 ・保護者としては、進学率や就職率への関心は高いが、今年度の実績は安心できるものであった。
 生徒指導に関して
 ・遅刻者数が大幅に減少しているのは評価できるが、今年度の目標数値を守れなかったのが残念である。
 ・いじめを早期に発見し、早期に対応するための活動は重要であるので今後も継続されるとよい。
 特別活動に関して
 ・ホームページや新聞等を通して様々な分野で生徒が活躍していることが分かりよい。
 ・市内唯一の高等学校としての期待が大きいので、地域連携を更に深めてもらうことを期待する。